



2016年 1月発行 NO. 11
風の子第二保育園 つどいの広場

《今と昔のあそびや生活》

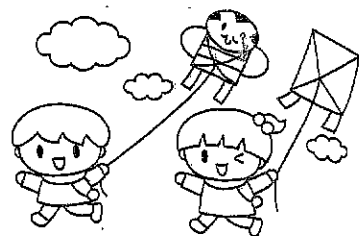
遊びは子どもにとって、おもしろく楽しい活動です。しかし、同じ遊びでも時代や環境によって大きく変化してきました。

今の子ども達の遊びといえば、身体を使わないで済んでしまうゲームやコミュニケーションのいらぬ遊びがほとんどです。生活面でも、近年様々なものが便利になりました。例えば水道、最近では蛇口を押したり、センサーに触れたりするだけで水が出ます。昔だったら自然に行っていた蛇口を“ひねる”という機会も少なくなってきました。これでは、指先の力などが育ちにくく、また、指先を使わないと脳への刺激が不足してしまいます。

昔の子ども達は、遊びや生活を通して、たくさんの人とコミュニケーションをとりながら過ごしていました。それにより、自然と運動能力やコミュニケーション能力が身に付いていきました。例えば、手遊びやお手玉はわらべうたを歌いながら手を動かしますよね。これは2つ以上のことを同時に行っていることになり、前頭葉の発達にとっても良いのです。前頭葉が発達しないと、キレやすかったり、情動的になりやすい子になってしまいます。昔はこのようなことが科学的に証明されていたわけではありませんでした。遊びや生活の中で、自然に行っていたのです。

昔遊びは、育ちにくくなった力を養うことができます。風の子第二保育園でも、竹馬やこま回し、たこあげ、和太鼓、あやとり、お手玉、わらべうたなど、昔から子どもたちに親しまれてきた昔遊びを大切に、楽しんでいます。

親子で昔遊びを通して楽しみながら心身共に丈夫な身体を作っていきましょう！



《わらべうた》

◆わらべうたとは◆

子どもが遊びながら唱えた自然発生的な旋律がわらべうたです。誰かが作詞・作曲し楽譜に書いたものではないのです。これらは、親から子へ、子から子へ口伝により伝わってきました。なので、言葉も遊び方も旋律も、地方ごとに変化しているものがたくさんあります。

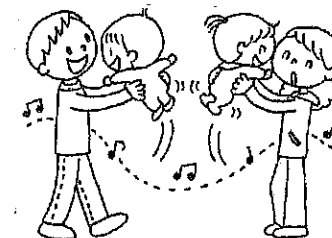
◆なぜ、わらべうたが良いのか？◆

わらべうたを歌ってもらうことで、子どもは親の愛情を受け止め、愛されているという思いを直に感じる事ができ安心します。親も子も歌や、肌と肌のふれあいを通して心が落ち着いたり、スキンシップをとることで信頼関係が築けます。

親の愛情をたくさん受けた子は、“自分は大切にされている”という気持ちを積み重ね、自分自身を大切にしていけることを覚えていきます。それにより、自己肯定感が育まれ、明るく素直な心で生きていけるようになります。

また、「もういいかい？」や「どれにしようかな？」などの遊びを通して、コミュニケーション能力も育まれます。

親子でわらべうたを通して楽しみながら信頼関係や自己肯定感、コミュニケーション能力を育てていきましょう！



《お手玉を使う遊び》

♪ぺったらぺったん♪

- 1、ぺったらぺったん～ もちつけ もちつけ もちつけ



お手玉を手に載せ、歌に合わせて、もう片方の手でお手玉を9回たたきます。

- 2、♪た



お手玉を自分の頭や肩に載せます。